

都道府県等名:広島県

目的	目 標 (事業実施期間)	目標値及び実績			事業実施主体名	設置又は整備した 施設・機器名	交付金相当額 (円) (うち地域提案メ ニュー)	備考
		目標値	実 績	達成度				
Ⅱ 伝染性疾病 ・病虫害の 発生予防・ まん延防止	家畜衛生の推進 (令和2年度)	施設の活用によるバイオ セキュリティの向上率 157%	157%	100%	広島県	クリーンルーム	20,148,606	
		施設の活用によるバイオ セキュリティの向上率 150%	150%	100%	広島県	安全キャビネット	2,330,381	
		施設の活用によるバイオ セキュリティの向上率 175%	175%	100%	広島県	車両消毒設備	7,279,863	
総 計・総合達成度				総合達成率 100% 達成度 A			29,758,850	

国による評価の概要

総合達成度は100%であり、総合評価「A」は妥当と判断する。なお、事業は適切に実施されたと評価する。

目標 家畜衛生の推進		事業実施期間 令和2年度			
都道府県等名 広島県		事業実施主体名 広島県			
事業の実施方法					
【事業内容】					
国内における豚熱（CSF）及び近隣諸国におけるアフリカ豚熱（ASF）の継続的な発生に伴い、野生いのししのCSF及びASF検査に係る検体処理数が増加することが見込まれたため、①病原体の交差汚染防止、②病原体の漏出防止、③検査者の安全性確保対策を強化する必要があるため、BSL3対応施設を整備した。					
（1）高度バイオセキュリティ対応施設の整備 高度バイオセキュリティ病性鑑定検査施設（クリーンルーム）					
【目標値の考え方】					
飼養豚及び野生いのしし検査を同日で実施する場合の所要時間（検体搬入から検査完了まで）の減少率を算出					
1 現状値					
検査に要する時間：14時間					
交差汚染防止のため、飼養豚検査後に野生いのしし検査を実施 飼養豚検査（6時間）＋清掃、消毒、滅菌（2時間）＋野生いのしし検査（6時間）					
[参考（内訳）]					
（飼養豚）検査に要する時間 前処理60分＋核酸抽出60分＋PCR180分＋電気泳動60分・・・＝6時間					
（野生いのしし）検査に要する時間 前処理60分＋核酸抽出90分＋PCR150分＋データ処理60分＝6時間					
・清掃（30分）＋消毒（30分）＋滅菌（60分）＝2時間					
2 事業実施後（令和3年度及び4年度）					
検査に要する時間：6時間					
飼養豚検査を従来の検査室、野生いのしし検査をクリーンルームで実施することで、同時検査が可能 飼養豚検査（6時間）、野生いのしし検査（6時間）					
【目標値】					
目標値 ＝ 100 × （1＋A）＝ 100 × （1＋0.57）＝ 157					
A＝（現状値－事業実施後の見込値）／現状値 ＝（14－6）／14＝8／14＝0.57					
目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
施設の活用によるバイオセキュリティの向上率 （飼養豚及び野生いのしし検査を同日で実施する場合の所要時間）	100% （14時間）	157% （6時間）	157% （6時間）	100%	A
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 （円）	左の交付金相当額 （円）	交付率 （%）	
高度バイオセキュリティ対応施設整備	クリーンルームの整備	40,297,212	20,148,606	50	
（計）		40,297,212	20,148,606		

事業の成果 【実施状況】 3 実績 契約年月日 令和2年12月18日 着工年月日 令和2年12月19日 事業完了年月日 令和3年5月17日 バイオセキュリティレベル3のクリーンルームを整備し、野生いのししのCSF及びASF検査を効率的かつ衛生的に実施した。 従来の検査室とクリーンルームを同時に使用して検査を行った時間の減少率を比較 (目標値) 検査に要する時間：6時間 (検証方法) 飼養豚及び野生いのしし検査を同日で実施する場合に、従来の「飼養豚の一般病性鑑定の検査（6時間）実施後、清掃、消毒及び滅菌（2時間）を行い、その後、野生いのしし検査（6時間）実施する場合」と、「飼養豚検査を従来の検査室、野生いのしし検査をクリーンルームで実施することで、飼養豚の検査と野生いのししの検査を同時に行う場合」の所要時間を、目標と比較することにより成果を検証するものとする。 (整備後の実績) 野生いのしし検査：毎週2回（火曜日、金曜日） 令和3年度 6時間 令和4年度 6時間 平均6時間 → 6時間 [説明] 令和3年度 飼養豚検査を従来の検査室で、野生いのしし検査をクリーンルームで実施し、病原体の交差汚染防止、病原体の漏出防止、検査者の安全性確保対策を取るとともに、目標の6時間で効率的に検査を実施することが出来ている。 令和4年度 飼養豚検査を従来の検査室で、野生いのしし検査をクリーンルームで実施し、病原体の交差汚染防止、病原体の漏出防止、検査者の安全性確保対策を取るとともに、目標の6時間で効率的に検査を実施することが出来ている。 (整備後の向上率) 令和3年度 $100 \times (1 + (14-6) \div 14) = 157$ 令和4年度 $100 \times (1 + (14-6) \div 14) = 157$ 平均157% → 157% (達成度) 実績値÷目標値×100 = $157.0 \div 157.0 \times 100 = 100.0$ 100% (小数点以下切捨) このことから、留意事項により評価は” A (達成度80%以上) ”に該当	
都道府県等による評価の概要 令和3年度から令和4年度にかけて野生いのししの検査頻度が大きく増加したが、本事業を活用したクリーンルームの整備により、効率的な検査実施と同時に、病原体の交差汚染防止、病原体の漏出防止、検査者の安全確保ができたと評価する。 引き続き、当施設を活用し、県内野生いのししの豚熱等浸潤状況を継続的に把握するとともに、豚の豚熱等対策を図り、バイオセキュリティの確保に努めたい。	
第三者の主なコメント 広島県農業関係施策検討会議 (第三者会議)(委員については別紙参照) 事業を適切に実施している。	国による評価の概要 目標値は達成されており、交差汚染リスクの低減、バイオセキュリティの向上、効率的かつ効果的な検査体制づくりなど、目的に則した十分な機能を発揮していることから、事業は適切に実施されたと評価する。

別記様式第14号－5（第29第1項関係）

目標 家畜衛生の推進		事業実施期間 令和2年度			
都道府県等名 広島県		事業実施主体名 広島県			
事業の実施方法					
【事業内容】 豚熱（CSF）及びアフリカ豚熱（ASF）に係る検査を実施する際、野生いのしし検体と一般病性鑑定検体間の交差汚染防止を図ると共に、検査効率の向上が見込まれるため、安全キャビネットを1台追加整備した。 （１）高度バイオセキュリティ対応施設の整備 高度バイオセキュリティ病性鑑定検査施設（安全キャビネット） 【目標値の考え方】 病性鑑定効率の向上率：安全キャビネットを用いて行う作業（乳化处理及びDNA抽出）時間の減少率を算出 1 現状値 1時間当たりの最大処理可能検体数：15検体 最大処理可能検体数：検体（臓器）の場合の1時間当たりの最大検体数 単位当たりの所要時間 ＝ 60分/15検体 ＝ 4.0分/検体 2 事業実施後（令和3年度及び4年度） 1時間当たりの最大処理可能検体数：30検体 単位当たりの所要時間 ＝ 60分/30検体 ＝ 2.0分/検体 【目標値】 目標値 ＝ $100 \times (1 + A)$ ＝ $100 \times (1 + 0.5)$ ＝ 100×1.5 ＝ 150.0 $A = (\text{現状値} - \text{事業実施後の見込値}) / \text{現状値}$ $= (4.0 - 2.0) / 4.0 = 2.0 / 4.0 = 0.5$					
目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
施設の活用によるバイオセキュリティの向上率 （安全キャビネットを用いて行う作業（乳化处理及びDNA抽出）時間）	100.0% (4.0分/検体)	150.0% (2.0分/検体)	150.0% (2.0分/検体)	100%	A
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 (円)	左の交付金相当額 (円)	交付率 (%)	
高度バイオセキュリティ対応施設整備	安全キャビネットの整備	4,660,762	2,330,381	50	
(計)		4,660,762	2,330,381		

事業の成果

【実施状況】

3 実績

契約年月日 令和2年12月18日
着工年月日 令和2年12月19日
事業完了年月日 令和3年5月17日

安全キャビネット1台を追加整備することで、野生いのしし及び飼養豚を含む一般病性鑑定（豚等）の検査を、検査数が増えた場合でも交差汚染を防ぎつつ、効率的に実施した。

安全キャビネットを用いて行う作業（乳化处理及びDNA抽出）時間の減少率を比較

（目標値）

1時間当たりの最大処理可能検体数：30検体
単位当たりの所要時間＝60分/30検体＝2.0分/検体

（検証方法）

野生いのしし検体は狩猟者による捕獲量の多寡で変動し、飼養豚を含む病性鑑定数は1日に数検体しか検査をしない場合もあることから、年間平均検体数を元に1検体当たりの検査時間を試算すると、実態を正確に検証することができない。

事業の目的は、野生いのしし及び飼養豚を含む病性鑑定の検査数が増えた場合でも交差汚染を防ぎつつ、円滑に大量の検査を行う体制づくりである。

そのため、最も多くの検体数を処理した日（最も不利な条件であった日）を用いて、従来の「安全キャビネット1台で一般病性鑑定の検査実施後、消毒後に野生いのしし検査を実施する場合」に対し、「野生いのしし及び一般病性鑑定の検査を別々の安全キャビネットで同時に実施する場合」の所要時間を目標と比較することにより成果を検証するものとする。

（整備後の実績）

令和3年度

1時間当たりの最大処理検体数 野生いのしし：15検体、飼養豚を含む一般の病性鑑定：15検体 合計30検体
（1回の最大処理検体数 野生いのしし：20検体、一般病性鑑定：30検体）
単位当たりの所要時間 平均60分/30検体＝2.0分

令和4年度

1時間当たりの最大処理検体数 野生いのしし：15検体、飼養豚を含む一般の病性鑑定：15検体 合計30検体
（1回の最大処理検体数 野生いのしし：23検体、一般病性鑑定：30検体）
単位当たりの所要時間 平均60分/30検体＝2.0分

【説明】

令和3年度

野生いのしし検査と飼養豚を含む一般病性鑑定（豚等）を別々の安全キャビネットで同時に実施し、病原体の交差汚染防止を取るとともに、効率的に検査を実施することが出来ている。

令和4年度

野生いのしし検査と飼養豚を含む一般病性鑑定（豚等）を別々の安全キャビネットで同時に実施し、病原体の交差汚染防止を取るとともに、効率的に検査を実施することが出来ている。

（整備後の向上率）

令和3年度 $100 \times (1 + (4.0 - 2.0) / 4.0) = 150.0$
令和4年度 $100 \times (1 + (4.0 - 2.0) / 4.0) = 150.0$ 平均 150.0% → 150.0%

（達成度）

実績値÷目標値×100 = $150.0 \div 150.0 \times 100 = 100.0 \dots 100\%$ （小数点以下切捨）
このことから、留意事項により評価は”A（達成度80%以上）”に該当

都道府県等による評価の概要

本事業により広島県西部家畜保健衛生所施設を改修し、安全キャビネットを追加整備したことで、2台の安全キャビネットを使用し、野生いのししと一般病性鑑定（豚等）との検体間の交差汚染を防止しつつ検査精度を上げる体制づくりができた。さらに、検査体制の機能向上により1検体あたりの病性鑑定に要する時間の減少につながったと評価する。

引き続き、当施設を活用し、県内野生いのししの豚熱等浸潤状況を継続的に把握するとともに、豚の豚熱等対策を図り、バイオセキュリティの確保に努めたい。

第三者の主なコメント

広島県農業関係施策検討会議
（第三者会議）（委員については別紙参照）

事業を適切に実施している。

国による評価の概要

目標値は達成されており、交差汚染リスクの低減、バイオセキュリティの向上、効率的かつ効果的な検査体制づくりなど、目的に則した十分な機能を発揮していることから、事業は適切に実施されたと評価する。

別記様式第14号－5（第29第1項関係）

目標 家畜衛生の推進		事業実施期間 令和2年度			
都道府県等名 広島県		事業実施主体名 広島県			
事業の実施方法					
【事業内容】 病性鑑定施設を有する畜産事務所に野生いのしし材料を搬入する際、従来、当該畜産事務所職員が検体搬入車両の消毒を、簡易動力噴霧器により手動で実施していたが、業務の効率化を図るため、自動車両消毒設備を整備した。 （1）高度バイオセキュリティ対応施設の整備 病性鑑定を適切に実施するために必要な関連施設等（車両消毒設備） 【目標値の考え方】 車両1台あたりの消毒に要する時間の減少率を算出 1 現状値 車両1台あたりの消毒に要する時間 8.0分 （内訳）動力噴霧器作動準備 3.0分 車両への消毒液噴霧 2.0分（0.5分×4面） 動力噴霧器片付け 3.0分 2 事業実施後（令和3年度及び4年度） 車両1台あたりの消毒に要する時間 2.0分 （内訳）消毒装置の起動から消毒液噴射までの時間 30秒 車両への消毒液噴霧（全体） 60秒 消毒装置の停止までの時間 30秒 【目標値】 目標値 = $100 \times (1 + A) = 100 \times 1.75 = 175$ $A = (\text{現状値} - \text{事業実施後の見込値}) / \text{現状値}$ $= (8.0 - 2.0) / 8.0 = 6.0 / 8.0 = 0.75$					
目標値					
項 目	現状	目標値	実績	達成度	評価
施設の活用によるバイオセキュリティの向上率	100%	175%	175%	100%	A
（車両1台あたりの消毒に要する時間）	（8.0分）	（2.0分）	（2.0分）		
事業内容及び実績額					
事業内容	規格・規模等	所要額実績 （円）	左の交付金相当額 （円）	交付率 （%）	
高度バイオセキュリティ対応施設整備	車両消毒設備の整備	14,559,726	7,279,863	50	
（計）		14,559,726	7,279,863		

事業の成果

【実施状況】

3 実績

契約年月日 令和2年12月18日

着工年月日 令和2年12月19日

事業完了年月日 令和3年5月17日

車両消毒設備を整備し、野生いのしし材料を搬入する車両を効率的かつ確実に消毒した。

車両消毒に係る時間の減少率を比較

(目標値)

車両1台あたりの消毒に要する時間 2.0分

(検証方法)

検体搬入車両1台の消毒を、畜産事務所職員が手動で簡易動力噴霧器を使用して行った場合と、車両消毒装置を使用して消毒を行った場合の所要時間を、目標と比較・検証することにより成果を検証するものとする。

(整備後の実績)

令和3年度 自動で車両1台の全体(4面)の消毒に要する時間 2.0分

令和4年度 自動で車両1台の全体(4面)の消毒に要する時間 2.0分

[説明]

令和3年度

消毒にかかる時間が車両消毒装置を通過する時間のみとなり、目標の2.0分で確実に消毒することが出来ている。また、畜産事務所職員の業務の効率も上昇した。

令和4年度

消毒にかかる時間が車両消毒装置を通過する時間のみとなり、目標の2.0分で確実に消毒することが出来ている。また、畜産事務所職員の業務の効率も上昇した。

(整備後の向上率)

令和3年度 $100 \times (1 + (8.0 - 2.0) / 8.0) = 175$

令和4年度 $100 \times (1 + (8.0 - 2.0) / 8.0) = 175$ 平均175% → 175%

(達成度)

実績値 ÷ 目標値 × 100 = $175.0 \div 175.0 \times 100 = 100.0$ 100% (小数点以下切捨)

このことから、留意事項により評価は”A(達成度80%以上)”に該当

都道府県等による評価の概要

令和3年以降、野生いのしし検体搬入頻度が上がったが、本事業の成果により、車両消毒が短時間で実施可能となり、業務を効率的に行うことができたと評価する。

第三者の主なコメント

広島県農業関係施策検討会議
(第三者会議) (委員については別紙参照)

事業を適切に実施している。

国による評価の概要

目標値は達成されており、交差汚染リスクの低減、バイオセキュリティの向上、効率的かつ効果的な検査体制づくりなど、目的に則した十分な機能を発揮していることから、事業は適切に実施されたと評価する。